

IR担当役員メッセージ



執行役員
経営戦略本部長／
IR担当

田中 千也

経営戦略本部長及びIR担当役員として

各国でキャッシュレス化が進むなかでも、当社グループの通貨処理機の売上は人手不足や人件費高騰を背景に伸び続けています。特に欧米市場での成長が顕著であり、当面は通貨処理機事業の拡大が見込まれます。しかし、株式市場からは通貨処理機事業は成長しない事業と見なされているためか、当社はPERが低く、PBRも1倍に達していません。株式市場の当社評価と当社の事業実態とのギャップを埋めることがIR担当役員としての使命の一つだと思っています。また、当社グループの保有技術や顧客資産とのシナジーが見込める通貨処理機以外の事業にも戦略的に投資し、成長させることが当社グループの事業安定性の確保に必要なため、経営戦略本部長の立場から、こちらにも精力的に取り組んでまいります。

ステークホルダーエンゲージメントの強化

当社のお客さまには、誰もが知っているような世界のトップリテーラーやファストフードチェーン企業が名を連ねており、当社グループの売上規模も従業員比率も日本より海外の方が大きくなっています。しかし、当社が世界中のお客さまの事業インフラを支えるグローバル企業であることを投資家・アナリストの方々に十分に伝えられておらず、これも低いPBRの要因の一つであると見ています。また、海外の投資家、アナリストの方々からの当社に対する認知度はまだまだ低く、海外の方々に対するエンゲージメントの強化も当社のIR上の重要課題となっています。

ステークホルダーの皆さまとの対話を通じて、当社及び当社の事業がどのように受け止められているのかを理解し、社内で認識している当社の現実とのギャップを埋めていくことに加えて、いただいたご意見やアドバイスを真摯に受け止め、取締役会と共有し、社内での議論を行い、エンゲージメントを高めるためのイベントの実施やコンテンツの改善につなげていきたいと考えています。

株主還元

「2026中期経営計画」初年度は、累進配当とDOE3%以上が具体的な株主還元方針でしたが、本計画の2年目を開始した2025年5月に、新たに「総還元性向100%以上」を項目に加えました。これは、本計画目標値達成に対する自信の表れと受け止めていただきたいと思います。この新たな株主還元方針の発表後には、投資家・アナリストの皆さまからいろいろなお意見をいただきましたが、概ね好意的に受け止めていただきました。本計画最終年度となる2026年度は新たな中期経営計画を策定する年でもあります。必要な成長投資や事業ポートフォリオの見直し、最適資本構成などを社内ですっかりと議論していき、PBRを向上させ、かつ長期的な企業の成長及び企業価値の最大化につながる新たな株主還元方針を確立したいと思います。

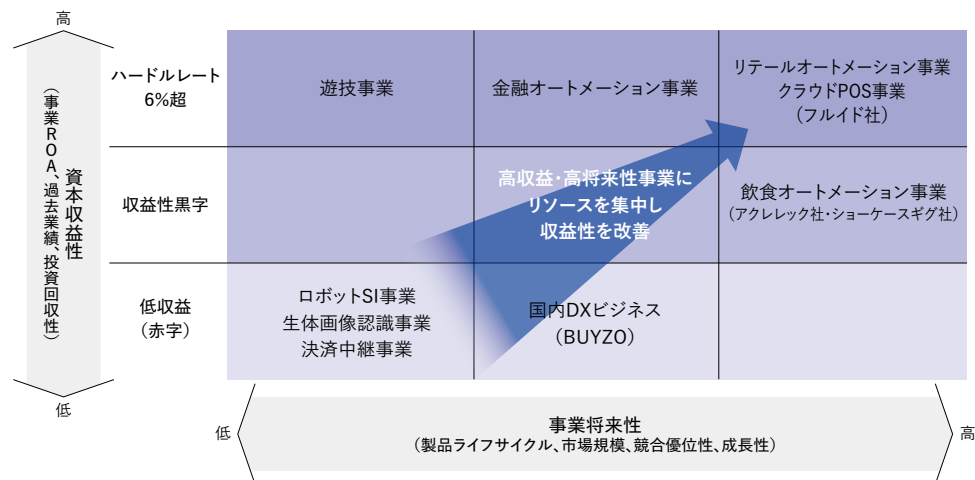
IR担当役員メッセージ

ROIC経営の進捗

ROICは、投下した資本に対してどれだけの利益を生み出しているかを示す指標であり、企業の資本効率を評価するための重要な指標です。「2026中期経営計画」ではROICを経営目標の一つとして掲げ、ROIC・WACCスプレッドを最大化していくことで当社の成長スピードを上げたいと考えています。理論的にはROIC・WACCスプレッドがプラスであればPBRも1倍を超えるはずですが、当社はまだそうになっておりませんので、さらなるROICの向上を目指すとともに、エンゲージメント強化による株主資本コストの低減を実現したいと思います。

また、事業別にROICを評価することで、事業ポートフォリオ分析による事業判定も実施しています。将来ROICが大きくなる事業に対して、よりリソースを投下することで事業成長を加速していきます。

事業ポートフォリオの最適化



事業ポートフォリオ体系図

収益力と資本効率の向上による企業価値向上 (ROE>株主資本コスト、ROIC>WACC)

事業ポートフォリオマネジメント

